

## 令和8年度 第6回青森県特別支援学校総合スポーツ大会

# 「ボッチャ競技」実施要項

- 1 日 程 令和8年7月1日(水)  
開会式 10:00  
競技開始 10:30  
※参加校数によっては時間が変更になる場合もある。
- 2 会 場 新青森県総合運動公園マエダアリーナ サブアリーナ
- 3 監督会議時間 9:40 ~ (場所:サブアリーナ ボッチャ競技本部前)
- 4 競技方法 チーム戦 ・3名対3名による1試合2エンドマッチ ※タイブレークあり  
・予選リーグ戦方式、決勝トーナメント方式 ※参加状況により変更あり  
・中学部、高等部に分けて競技を行う。
- 5 競技規則 日本ボッチャ協会競技規則を参考にして行う。ただし、クラス分け、チーム編成等は、青森県特別支援学校総合スポーツ大会本大会申し合わせ事項による。
  - (1) エントリー対象
    - ・特別支援学校に在籍する中学部・高等部生徒をエントリー対象とする。
    - ・各校とも中学部、高等部それぞれ1チームまで申し込むことができる。
    - ・中学部・高等部生徒の混合チームを可とし、その場合は高等部でのエントリーとする。
    - ・学校単独での参加が困難な場合は、本大会開催要項別紙2「合同チームによる大会参加についての基本的な考え方」により、合同チームでの参加を認める。何らかの事情により、エントリー後に合同チームの結成が困難になった場合には再エントリーは認めず、チャレンジボッチャ競技へ移行することとする。
  - (2) チーム編成
    - ・3名1組で構成されたチームで行う。
    - ・控え選手は2名まで登録することができる。
  - (3) 競技ルール
    - ① 選手
      - ・審判が投球指示を出す前に投球動作にはいってはならない。
      - ・審判が投球指示を出す前に投球してはならない。
      - ・投球時、スローイングラインに体の一部や車いす等のタイヤが触れてはならない。投げた手がライン上空を越える等はよい。  
※投球時とは、ボールが手から離れた瞬間、またはランプを転がり始めた瞬間のことをいう。
      - ・選手、スポーツアシスタント、ランプオペレーター、ボール、その他のアイテムが、選手のスローイングボックスの枠線またはボックス外の床に接触した状態でジャックボール、赤または青ボールを投球してはならない。
      - ・投球時、臀部が車いす等シートから離れてはならない。  
※上記5つはファウルスローとして審判は投球後すぐにボールを止めてコート外に出す。
      - ・競技中はコート外にいるコーチ、スポーツアシスタント、控え選手とコミュニケーションをとってはならない。  
※選手間のコミュニケーション等は、投球指示が出されているチームの選手間と、選手の指示のみとする。

- ・投球指示が出されなかったチームの選手は、投球の妨げにならないよう後ろの方に下がる。ラインを超えてもよい。ただしコミュニケーション等はしてはならない。
- ※ランプを使う選手は下がらなくてもよいが、隣のボックスの選手が投球する場合は妨げにならないよう細心の注意をはらう。
- ・1名は主将としてキャプテンマーク（腕章）を装着して試合を行う。
- ・コイントスは必ず主将が行う。
- ・控え選手は、エンドとエンドの間に交代することができる。交代してコート外に出た選手は再度コートに戻ることはできない。

## ② 監督

- ・試合に出場するチームには、監督を1名配置すること。監督はエンドとエンドの間に選手に指示を出したり、審判に選手交代を伝えたりすることができる。

## ③ スポーツアシスタント

- ・車いす等使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な選手1名につき、1名のスポーツアシスタントが認められる。
- ・選手の位置調整、車いす等位置調整、ボール手渡し、ボール回収等ができるが、選手への戦略的アドバイスを送ることはできない。

## ④ ランプオペレーター

- ・車いす等使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な選手及びランプを使用する選手1名につき、1名のランプオペレーターが認められる。
- ・選手の位置調整、車いす等位置調整、ボール手渡し、ランプ位置調整、ボール回収等ができるが、選手への戦略的アドバイスを送ることはできない。
- ・競技中に試合の状況を見るためにプレイングエリアを振り返ってはならない。

## ⑤ 得点及び勝敗、試合エンド数、タイブレーク等

- ・赤・青サイドの両チームに6球のボールが与えられ、投げる、転がす、蹴る等してジャックボール（目標球）にいかに近づけるかを競う。
- ・ジャックボールに一番近いボールを投球したチームに得点が与えられる。
- ・得点できなかったチームのジャックボールに一番近いボールを基準とし、そのボールとジャックボールの距離より内側にある得点チームのボールが全て得点対象となる。
- ・ジャックボールから一番近い等しい距離に両チームのボールがある場合、ボール1球につき1点ずつ両チームに与えられる。
- ・1試合2エンドマッチとし、2エンド終了時点の総得点の多いチームが勝者となる。なお、同点の場合はタイブレークを行う。
- ・各サイドの各エンド制限時間は、1エンドあたり6分とする。ジャックボールを投球するための時間は、各サイドに割り当てられた制限時間の内に含まれる。制限時間内になった時点で、そのサイドがまだ投球していないボールは、すべて無効となる。
- ※選手同士の相談等は各エンドに与えられた制限時間の6分間の中で行うことができる。ただし、コーチ、スポーツアシスタントは相談に合流できない。ボールの配置を見に行く、審判に残り時間を聞く、現在の得点状況を聞く等も全てこの6分間の中で自由に何回でもできる。
- ・タイブレークは各チーム代表1名が1投球を行い、ターゲットボックス（35cm四方）内のジャックボールに近いチームが勝ちとなる。投球の順番は、コイントスで決める。
- ・メディカルタイムアウトは10分間、選手の異常に気付いたら審判が取ってもよい。テクニカルタイムアウトは、ランプが破損した場合、車いすが破損した場合等で修理の時間として10分間まで試合時間を止める

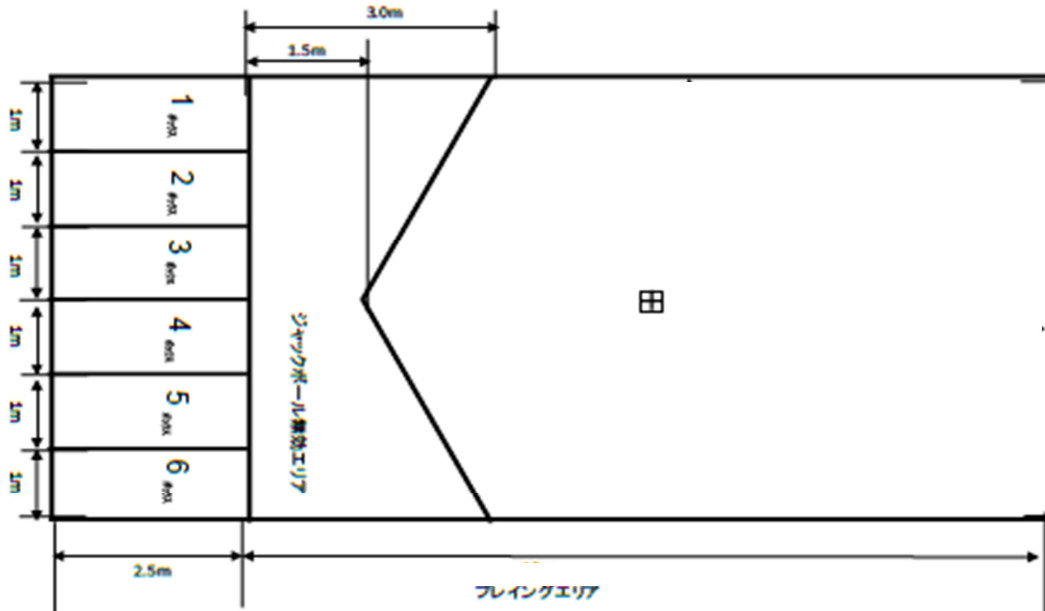
がそれ以上は認められない。

※メディカルタイムアウトとテクニカルタイムアウトはそれぞれ1回取ることができる。

- 各エンド終了後、得点が選手側から見てどちらが勝ったか、何点だったか容易に判断できない場合は、ジャックボール付近に選手を集め、審判が結果について具体的に説明し、選手全員に納得してもらう。

⑥ コート

- コートはバドミントンコートのアウトラインとする。



(4) 各校の持参物

- ボッチャセット
- その他競技で必要な物 (ランプ等)

(5) 審判

- 主審はゲームコントロール、距離計測等を行う。ボール回収等はアシスタント等が行う。
- 計時は時間の管理、スコアシートの記入、会場のスコアボードに得点の掲示、その他用具の管理等を行う。
- 主審・計時とも、審判員 (青森県ボッチャ協会) に依頼するほか、不足分は競技スタッフが行う。

(6) 表彰

- 3位まで賞状を授与する。
- 表彰式は、試合終了後にコート内で行う。

6 その他

- 競技参加上の合理的配慮は、参加生徒の障がいの状況や教育的ニーズ等に応じて提供する。
- 第一試合で敗れた学校を対象に交流試合を行う。尚、参加数によって中止する場合もある。
- チャレンジボッチャ競技は、期間内に各校で実施する。詳細はチャレンジボッチャ競技の実施要項を参照する。

【ボッチャ専門部主管校】  
青森県立青森第一養護学校内  
委員長 小田切 亮磨  
TEL 017-781-1068  
FAX 017-781-1071  
E-mail 2020ases001@gmail.com